

# To Our Shareholders 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、誠に有難く、厚くお礼申し上げます。ここに当社第19期中間期(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)の営業概況をご報告させていただきますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

## 経営成績

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、製造業を中心とした設備投資の緩やかな持ち直しと一部に株価の回復が見られましたものの、イラク戦争やSARS(重症急性呼吸器症候群)といった海外での不安要因もあり、国内の雇用環境が改善されないまま、個人消費は依然として低迷した状況で推移いたしました。

食品業界や外食業界におきましても、このように景気が低迷する中で、消費に対する支出が抑えられ、一段と同業者の低価格競争が激化するなど、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況の中で、当社グループは一層の経営の効率化と組織的な事業運営を図り、収益力の向上に努めました。

その結果、当中間期の総売上高は、51億92百万円(前年同期比0.2%減)とほぼ前年同期並みになりました。一方、製造原価の低減や経費の効率化により経常利益は4億20百万円(前年同期比16.7%増)となりましたが、店舗改装に伴う固定資産除却損等の計上により中間純利益は1億44百万円(前年同期比1.6%増)となりました。



3

## 通期の見通し

今後のわが国経済の見通しは、一部の製造業を中心に設備投資の増加が見られますものの、国内外の不安要因もあり、依然として先行きの不安から国内の雇用情勢や個人消費の低迷が本格的に回復するまでには至らないものと思われる。

このような状況のもと、当社グループは、新製品を使用したメニューを投入するなど、ドレッシング事業とレストラン事業のシナジー効果を高め、他社にない独自の製品やサービスの提供等により、市場におけるブランド力を維持・向上させ、引き続き収益の拡大に向けて取り組んでまいります。

平成16年3月期の連結業績予想につきましては、引き続き個人消費の低迷や同業他社との競合激化等が予想されますことから、売上高100億9百万円(前年同期比1.3%増)、経常利益6億45百万円(前年同期比46.5%増)、当期純利益2億25百万円(前年同期比70.0%増)を見込んでおります。

当社グループは、企業価値の最大化に向けて「ブランド価値の向上」「効率性の追求」「新製品の開発」の3つの施策を掲げ積極的に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

平成15年12月  
代表取締役社長

村田邦彦

